

■(神谷)神屋宗湛 豪商, 茶人。博多復興し諸産業振興して“博多三傑”も失意の晩年。「宗湛日記」は茶の湯研究史料。

かみやそうたん
川中島の戦始1553= 勘合貿易をしていた神屋一族の子に生まれる。

大友府内開港1559= 6歳 : この年, 筑紫惟門が大友氏に反旗を翻したことから, 博多が全焼。
桶狭間の戦・1560= 7歳 :

大村長崎開港1562= 9歳 :
大村純忠受洗1563=10歳 : この年, 永禄の乱で聖福寺に大被害。
川中島の戦終1564=11歳 : この年, 神屋家が筑前代表としてお札の取次ぎの記載,

織田信長入京1568=15歳 :
京都直教許可1569=16歳 : この年, 立花城をめぐる大友・毛利氏の激闘で, 博多でも合戦があるなど, たびたび博多が戦火にあつて, 疎開先で交易拠点の唐津草野家との間を行き来するという状態ながらも, 神屋家は筑前を代表する豪商として存在し続け, 朝鮮とも盛んに交易,

比叡山焼討・1571=18歳 :
三方原の戦・1572=19歳 : この年, 神屋家がお札の取次ぎの記載,
室町幕府滅亡1573=20歳 :
長篠の戦・1575=22歳 : この年, 大賀宗九が父に従って博多に来る。

博多は急速に復興していたが,

石山合戦終・1580=27歳 : 竜造寺氏の筑前侵入で, またも博多は全焼。

本能寺の変・1582=29歳 : 島井宗室と上洛して織田信長に謁したが, 本能寺の変にあい,

秀吉太政大臣1586=33歳 : *唐津から再度上洛し, 飛躍を図る手段として大徳寺で剃髪得度し, 宗湛と号する。「宗湛日記」開始。堺の千利休・天王寺屋(津田)宗及らと親交し, 指導も受けるうち,
パテン追放令 1587=34歳 : *秀吉の大坂大茶会に招かれ初顔合わせ。豊臣秀次に挨拶し, 千利休の茶会・大阪城山里丸の茶会などに出席, 島津攻めの秀吉陣中見舞いで薩摩に行き, 唐津に戻る。箱崎に凱旋した秀吉から, 島井宗室とともに博多復興を命ぜられ, 直ちに町人側の代表として町割りに直接参加し完了, 宅地を与えられ町役免除となる。
刀狩海賊取締1588=35歳 : 草野宗永を自分の茶室に招く。この年, 秀吉の命で, 千利休が箱崎で茶会を催す。
1589=36歳 : 続いて, 小早川隆景から名島城下町家の建設も命じられる。
この間, 秀吉を茶会に招くほど信頼を得, 特権政商として, 朝鮮・中国さらには東南アジアとも交易,

秀吉全国統一1590=37歳 :
士農工商公布1591=38歳 : 千利休が自刃。天王寺屋(津田)宗及も死去。
文禄の役・1592=39歳 : 島井宗室とともに, 博多津内の蔵を全て空け兵糧米を備蓄するよう, 秀吉からの命を受け, 名護屋城の黄金の茶室の茶会に招かれる。自邸に秀吉を招く。お伽衆(ブレーン)となり, 諸大名西下で茶会振舞も急増。

方広寺大仏殿1593=40歳 : 秀吉の命で, 五千俵積みみの船を準備,
ルツ島通交・1594=41歳 : 大坂・京へ上り, 諸大名らと茶会で交歓。
関白秀次事件1595=42歳 : ようやく名島城下町の体裁が整い, 小早川秀俊の筑前入部に奔走するも, 秀俊の評判良からず。
豊臣秀吉没・1598=45歳 : 秀吉が死去。朝鮮から博多に帰還する諸大名のため, 慰労の茶会を続ける。
関ヶ原の戦・1600=47歳 : *関ヶ原戦後, 黒田長政が名島城に入るにあたり, その父如水に挨拶に行くも, 冷たくあしらわれ, 黒田父子の福岡城と町の建設に資金提供。

阿国歌舞伎始1603=50歳 : 徳川家康が將軍宣下を受けると, すかさず贈り物をして関係を構築し,
糸割符法始・1604=51歳 : 黒田如水が死去。
徳川家康隠居1605=52歳 : 黒田長政が, 領内三十港内に福岡を入れる。
この間, 長政が自らの権力強化のために利用されて, 次々茶会を開く。

家康駿府退隠1607=54歳 : 黒田長政が, 博多御制札を出す。
1608=55歳 : 黒田長政が, 福岡と博多に五人組を設置することを命じる。
宗室に代わり博多を代表する商人となり, 櫃による製蠟・博多素麺・冶金など産業開発に取り組むものの,
琉球使始・1610=57歳 : この頃, 大賀宗九が平戸のイギリス商館やポルトガル商人に高利貸し。
キリシ教禁止・1612=59歳 : 黒田長政が国中の人の出入り定め, 大賀宗九取立て, 宗湛の名見えず。長政の命で長谷川左兵衛を招く。
支倉常長渡欧1613=60歳 : この年までの茶会の様子を書きとめて「宗湛日記」は終わり,

大坂夏の陣・1615=62歳 : *大坂夏の陣で頼みの豊臣氏が滅亡し, 失意のどん底におちて以降, 動向は不明となり,
徳川家康没・1616=63歳 :

支倉常長帰国1620=67歳 : この年, 子の吉六を大徳寺に参禅に出したことが知られるのみ,

イパニ断交・1624=71歳 : 筑前藩主黒田氏に家宝{博多文琳(茶入)}を召し上げられ, 対価500石の知行と金1千両が与えられたが,
寛永寺創建・1625=72歳 : 死に等しい仕打ちに, 何の足しにも成らず,

徳川秀忠没・1632=79歳 :

鎖国令Ⅱ・1634=81歳 :
参勤交代始・1635=84歳 : 没した。